

第1部「上下水道海外業務こぼれ話」

講演者:小川孝明氏(上下水道・総合技術監理部門)

1. 外務省HP「たびレジ」メール配信サービス・外務省海外安全情報の紹介

海外へ出かける時は、平和な日本と海外では状況が異なるということをしっかり認識しておく必要がある。自分の身は自分で守るという意識を持つことが大事、同時に、正確な情報に早くアクセスできることが重要である。海外へ渡航する時は登録し、必要な支援が受けられるように準備を。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/> 「外務省海外安全ホームページ」

https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html 「ゴルゴ

13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」

2. 直近4年間にプロジェクトで訪れた各国のtopicsを紹介

①アゼルバイジャン(下水処理場建設):首都バクーの夜景「燃えるビル」、核シェルター大深度地下鉄を紹介。②ペルー(下水処理場建設):建設後運転されていないことを知りショック(会計検査院報告 2018/11/10)、アマゾン川とジャングルクルーズを紹介。③ウクライナ(下水処理場建設):ロシアの規格GOSTを紹介。④パキスタン(世界銀行の給水施設整備):断崖絶壁の道カラコラムハイウェイ(高所道路)、夜の漆黒の闇(電気の無い生活)、大腸菌に感染し最寄りの病院(車で6時間)へ駆け込んだ話を紹介。⑤ジンバブエ(下水処理場調査):クーデターに遭遇、ハイパーインフレを紹介。⑥エジプト(下水処理場建設):3度行って目的のピラミッドの中に入れた(勧誘に騙された)話を紹介。⑦ラオス(浄水場建設):メコン川の国境にかかる橋(ビザ更新のためタイ国へ)を紹介。

第2部「技術継承の一方法」

講演者:中村秀人氏(上下水道・総合技術監理部門)

工事監査を通じて、技術継承が可能と考えたその内容についての紹介。

1. 改善項目では

①仕様書:一般仕様書と特記仕様書の役割分担が不明。記載内容として必要なものが理解されていない。②設計:事業目的を満たす機能が設計されているか。経済性、機能の検討のない過剰な設計。③施工計画書:内容の把握がおろそか。④現場標識:扱いがルーズ。⑤監督員:契約の適正な履行確保が目的。⑥工程管理:工程管理の理解不十分。⑦交通管理:具体的な記述、指導が求められる。⑧安全管理:工事内容、施工場所、周辺環境を認識した個別具体でない。

2. 監査報告書の内容

①工事着手前:調査・設計・積算・入札に関して、記載。②工事着手後:契約後の手続き、工事監視後の状況、施工計画の実施状況の確認。現場状況の確認。③所感:法令への関心が低い。系統的に監督員や検査員の教育研修を受けていない。前例の踏襲がおおい。技術的な検討内容が委託先任せ。設計・施工で工事現場の個別環境への配慮不足。職員の異動の影響で専門技術の習得が難しい。計画作成が目的化し、実施状況と計画の達成状況を把握・管理され、改善方策が考えられていない。

3. まとめ

以上のような、工事監査を通じて得られた課題を、解決方法と合わせて、示すことが技術継承に役立つのではないかと結ばれた。 (要約:高橋 紀成)